

日韓共同クルーズ「PEACE&GREEN BOAT」第10回記念共同声明

～真に平和で持続可能な東アジア共同体をめざして～

第一回日韓クルーズ「PEACE&GREEN BOAT」は2005年に船出しました。

それは、戦後60年、すなわち韓国の日本植民地支配解放60年の年であり、かつまた日韓国交正常化40周年を記念した「日韓友情年」でもありました。そして、また気候変動枠組条約、いわゆる「京都議定書」の発効の年でもあったのです。

時まさに、世界では地球温暖化による気候変動の危機が叫ばれ、日韓では第一次韓流ブームが盛り上がる一方、靖国参拝問題、竹島/独島問題、「慰安婦」問題など厳しい政治状況の荒波が私たちを待ち構えていた時期でもありました。

しかし、私たちは、「今こそ、環境と平和を掲げる日韓のNGOが力を合わせ、市民の命を守る平和環境共同体の礎を東アジアに築かねばならない」という強い思いを共有し、東アジアの大海原へと航海を始めたのです。

その後、12年間に渡り、私たちは対話と相互理解と信頼によって数々の困難を乗り越え、ついに10回目の日韓共同クルーズを実現するに至りました。両国からの参加者は実にのべ1万人を超え、大型客船を使ったユニークな直接交流により、かつてない規模での日韓市民間の友情を築いてきたと自負しています。

その歴史の中で、東日本大震災と原発事故、そしてセウォル号沈没事故は日韓ともにあらためて市民の命と安全をないがしろにする政治と社会のあり方に向き合う悲劇的なきっかけとなりました。先ごろ、韓国では100万人キャンドルデモによって誕生した新政権が、原発の危険性を認め脱原発政策を宣言をしたことに対して、私たちは賛同と敬意を表します。同時に、未だ福島第一原発事故の教訓を無視し、原発推進政策を進める日本政府に対し脱原発、自然エネルギー推進への政策転換を強く求めます。

一方で、「PEACE&GREEN BOAT」は初航海以来、4回にわたり被爆地・長崎を訪れ、日韓市民とともに直接、被爆者の方々の証言をお聞きしてきました。それゆえ本年7月7日の国連における核兵器禁止条約採択は、まさに私たちの長年の願いの実現でもありました。しかし、残念ながら日韓両国政府は「核兵器による抑止力は必要」という理由で、この条約に加入していません。私たちは両政府に、人類への破滅的被害を回避することを目的とした、この条約への加入を強く求めます。

そして、もう一つの人類に破滅的被害をもたらす存在、地球温暖化による気候変動に対しても、私たちは全力を挙げて引き続き行動していくとともに、自然エネルギー推進、平和、気候変動対策を含む国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に向けて包括的かつ創造的に取り組んでいきます。

最後に、私たちは、来年のピョンチャンオリンピック、そして2020年の東京オリンピックが真の平和の祭典として、環境を最大限考慮した持続可能なオリンピックとなるよう「PEACE&GREEN BOAT」の活動を通じて協力し合い、その過程が来たる「東アジア平和環境共同体」建設への礎となるよう努力することをここに表明します。